



「繋」～ つなぐ ～

これまでの伝統を大切にしながら、東宇治高校生であることに誇りを持ち、未来につなぐ人に育ってほしい。また、人と人のつながりを大切にし、協力しながら社会を明るくする人に育ってほしい。という願いをこめました。



京都府立
東宇治高等学校

第 3 学 年 学 年 通 信
第 9 号

令和8年2月27日

『卒業おめでとう！』

立派に成長したみなさんの姿を見ていると、精神的に自立し一人前の自覚を持った大人になるという当初の目的が達せられたよう様子を感じます。それは皆さんが常に自覚を持ち、自分の目標を達成するために自分で行動を起こし、努力してきた結果だと思えます。この3年間の努力と成長を、さらなる飛躍の為に、良い形で役立てて明るい未来を切り開いてください。

担任からのメッセージ

1組 山本 千賀子

この1年、皆さんが次のステップへ進むための大切な時期を一緒に過ごせたことに感謝します。私から見れば自分自身の人生を切り開くために時間や労力を使えるなんて羨ましい限りです。渦中の人はわからないでしょうが目前に立ちの壁を乗り越えようと一生懸命努力している姿は最高にきらきらしています。しんどい事があるから、我慢する事があるから何気ない時間や生活が楽しく輝いてくるのです。この間の苦労や達成感、悩みを共有してきた友達、全てが皆さんの今後の人生における財産になります。

2組 大泉 幸寛

この度卒業を迎える皆さんの多くは18歳の誕生日を迎えており、法律上成人(=大人)と扱われます。でも皆さんが持つ大人のイメージと比べると、きっと自分は世の中のことについて知らないことだらけだし、これからの生活に対して不安がたくさんあるかと思えます。知らないことは恥ではありません。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と昔から言われているように分からないことは正直に分からないと認め、素直に周りの先輩に質問しましょう。様々なことを知れば、不安はその分無くなっていくはずで、常に学ぶ気持ちを持って、これからの人生を歩んでください。

3組 鳥本 純平

・くるあさごとに／くるくるしごと／くるまはぐるま／くるわばくるえ

卒業おめでとうございます。小・中・高の卒業という節目を経るにしたがって、社会がみなさんに要求する力は高度になります。それぞれに言動の責任も強く自覚しなければならなくなります。冒頭の詩は岸田衞子の「くるあさごとに」という詩。高校を卒業し成人した皆さんは社会の歯車の一つとして社会にはめ込まれていきます。「常識」とか「当たり前」とか、「そういうものだから…」みたいなことにも納得し歯車として機能しなければなりません。でも、それだけでは人生つまらないですよ？力を入れてばかりではなく、繰り返しの日常の中に、心の中で社会の歯車なんて「くるわばくるえ(くるうならくるってしまえ)」と心を開放できる余裕と気楽さも大切にしてください。

4組 笹田 晴嗣

3年間の高校生活は、みんなにとってどのようなものでしたか？色々なことがあったと思いますが、今振り返ってみると「あっ」という間に過ぎ去ってしまったのではないのでしょうか？この学年は何事にも真面目に取り組む集団で、学習面・学校行事・部活動などで大きな財産を築き上げてきました。みなさんの一生懸命になって取り組んでいる様子を見て、こちらでも楽しく過ごすことができました。

さて、これから社会に出ていくわけですが、「いつも機嫌よく」「対応は丁寧に」「誰にも親切に」「どんなことにも寛大に」この言葉を大切に、過ごして下さい。

5組 永田 昂大

東宇治高校に赴任し、みなさんに出会ったのが2年前。学校のことはなにもわからない状態でしたが、なぜかすぐに溶け込めたように思います。振り返るとみなさんの優しさに支えられていたと感じています。ありがとう。

これから先の人生では、今まで出会ったことのない人たちと出会うことでしょう。自分に関わる全ての人を大切にしてください。必ずその想いが自分に返ってきます。周りに良い影響を与えられる人になってほしいなと思います。

6組 稲田 知恵

12月のいつ頃からか、黒板に卒業までのカウントダウンや残りの登校日数が書かれるようになりました。その時は気が早いものだなあと眺めているだけでしたが2月になり、週に1回だけの登校になるとそのカウントダウンさえも更新されないことに寂しさを感じました。寂しさを感じるということは、皆さんとの3年間が素晴らしいものであったことの証でもあります。皆さんはいかがですか？

卒業後、苦労することもたくさんあるでしょう。ですが、1人では難しいことも協力することで乗り越えられることを皆さんは知っています。自分のことも相手のことも大切にしながら活躍の場を広げていってください。

7組 澁谷 鷹也

2月のある朝、誰もいない、誰も来るはずのない教室の教壇の上で一人佇み、教室を見渡しました。誰かが元気に挨拶しながら入ってきたりするかなと淡い期待をして、でもやっぱりだれも来ないのですが、そういう気持ちに至るような3年間をみんなと過ごすことができたのだと再認識し、いま喪失感より、この上ない幸福感で満たされています。

3年前の4月からの写真を見返していると、そこから随分と大きくなったなと時の流れの速さを感じます。この3年間でいろんなことがあったはずなのに、思い出せばはっきりと覚えているのに、不思議ですね。

みんなはこれからもっともっと大人になります。人生において寄り道、脇道、回り道などありますが、君たちが決める君たちだけの道をこれから拓き歩いてください。